



新学長紹介

学長対談

人間国宝 中島宏さん

特集

佐賀大学のグローバル化推進のために

イキイキ佐大生

研究紹介

慢性骨髄性白血病の画期的治癒に期待

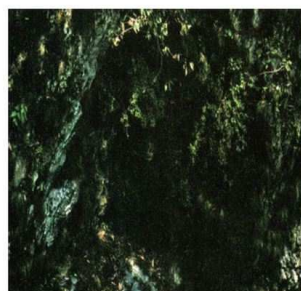
トピックス

経済学部版ホームカミングデイ

“楽しく、かっこよく、稼げる農業”を!

サークル紹介

お知らせ



宮崎新学長体制、スタート!

平成27年10月から、宮崎耕治学長による新体制がスタートした。少子化による入学者の減少や、交付金の削減など、大学の運営がより一層厳しさを増すなかで、佐賀大学をどのように導くか、新学長に大学運営の方針と抱負を語ってもらった。併せて、宮崎体制を支える4人の理事の抱負も掲載した。

6学部体制で多彩な人材育成

本学は、これまで5学部体制(文化教育、経済、医、理工、農)でしたが、平成28年4月からは現在の文化教育学部、部の再編と佐賀県立有田窯業大学校との統合によって、芸術地域デザイン学部と教育学部を発足させ、6学部体制となります。総合大学として、体制も強固になり、より多彩な人材の育成ができるかと期待しています。特に芸術地域デザイン学部は、国立大学としてはかなりユニークな学部です。全国で初めて美術館を有する国立の総合大学にふさわしい学部として、芸術家の育成だけでなく、広く地域社会の設計や芸術関連のマナー・ジメントや企画などが出来るなど、新しい時代が求める人材の育成を目指しています。さらに、芸術的な素養は、一学部だけに留めるのではなく、全学に広めることで、文化度の高い、芸術的素養のある多様な人材や、二芸に秀でた職人的人材など、多彩な人材を育てたいと思っています。

柔軟な教育・研究体制

平成28年度は第3期中期目標・中期計画期間のスタートにあたり、大学改革はさらに進み、厳しい運営を要求されます。本学としては、学生の教育を第一の使命として、教育の質を保証し、受け入れた学生は、しっかりと面倒を見て、学問的にも人間的にも高い資質を備えた状態で社会に送り出すことに、これまで以上に全力を尽くします。そのためには、時代の要求にすぐに対応でき、学部の枠を超えた、より柔軟な教育体制の構築が急務です。教員組織と教育組織の分離や、さらなる学部の改組も進めていくこととなります。それによって、本学が持てる実力が最大限に学生に還元できる体制が出来ていくと思われれます。社会が求める研究テーマに関して、関連ある教員が学部の枠を超えて結成しているプロジェクト研究所や、これまでの学部の改組も多様性の開発に他なりません。前体制の時代に、「インスティテュー

ショナル・リサーチ(IR)」という、全て明確な裏付けのあるデータに基づいた経営体制が出来上がっています。常にP D C Aサイクルを意識し、アウトカムだけではなく、プロセスにも数値目標(K P I)を設定し、的確、そして迅速に改革を進めて行きたいと思っています。

佐賀を誇りとして

本学では、地方国立大学として、地域に必要とされる「佐賀の大学」を目指すことが決定されています。若い時期の4年間や6年間を佐賀の地で勉学に励む学生たちには、是非、この機会に、佐賀に関しても学んでもらいたいと思います。幕末期佐賀藩は蘭学を推奨し、いち早く西洋文明を取り入れ



佐賀大学学長

みや ぎき こう じ
宮 崎 耕 治

宮崎新学長 略歴

- 昭和49年3月 九州大学医学部医学科卒業
- 昭和64年1月 佐賀医科大学医学部助手
- 平成7年12月 佐賀医科大学医学部教授
- 平成20年4月 国立大学法人佐賀大学医学部
附属病院長(平成23年3月まで)
- 平成21年10月 国立大学法人佐賀大学理事(医療担当)
(副学長、医学部附属病院長兼務)
- 平成26年4月 国立大学法人佐賀大学理事(渉外・医療担当)
(副学長、美術館長兼務)
- 平成27年10月 佐賀大学学長就任



理事(研究・社会貢献担当)

もん で まさ のり
門 出 政 則

本学は、「地域とともに未来に向けて発展し続ける大学」として、地域を志向した社会貢献・教育・研究を推進することで、地域活性化の中核的拠点大学となることを目指しており、総合大学の強みを生かし、社会の発展に貢献できる学生を育成・輩出し、地域社会を先導していきたいと考えています。「佐賀大学総合研究戦略会議」を通して、地域の「知」の拠点形成をするための研究環境の整備や重点研究領域を推進するための外部資金の獲得及び新たな研究プロジェクトの発掘、さらには本学の将来を担う若手研究者の育成に努め、また、各研究センターがその特色を活かした研究活動を通して、世界に発信出来る研究成果を得るため、支援をしていきたいと思ひます。



理事(教育・学生担当)

たき ざわ のぼる
滝 澤 登

本学は、大学憲章に「目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくり」や「教育先導大学」を標榜し、「入学」、「大学での学び」、「就職」を見通した「面倒見の良い大学」を目指して、高大連携の推進、教育の充実、学生支援の強化に全力で取り組んでいます。また、新たな教学マネジメント体制を確立するとともに、地域を志向した教育の充実、副専攻や学部・大学院の一体的教育プログラムなどを編成・実施し、幅広い教養教育と質の高い専門教育により、国際的な視野を持ち地域社会で多様に活躍できる学生の育成に取り組みます。

たため、明治維新の産業革命は佐賀から始まりました。三重津海軍所跡が明治産業遺産として世界遺産に登録されましたが、佐賀藩は本邦で初めて反射炉による溶鋳炉を製作、佐野常民を

はじめとする精錬方が蒸気機関を造り、蒸気船を製作、あるいは蒸気機関車を走らせたのです。本学も、地方大学であるということに委縮することなく佐賀を誇りとして、鍋島藩士に負け



理事(社会貢献担当/非常勤)

よし た づつ お
吉 田 哲 雄

本学が地域に貢献する大学として認知される為には、優秀な卒業生を社会に送り出すのみならず、地域との文化・科学・技術等の交流によって地域経済、社会、さらに企業の発展にも寄与する事が肝要であろうと考えます。具体的には、地域企業との産学連携、特に佐賀県は農林水産県である事からTPP時代に備え、農商工水産連携を進め、農業の六次産業化、有明海と玄界灘の水産資源の有効利用・高付加価値化・資源保護等、学部を越えた有機的繋がりの中で産学、さらに官を加えた産学官の連携の必要性を強く考えています。その過程において、学生(留学生を含めた)と地域産業、企業、さらに教員、研究者との繋がりが深められ、佐賀特有の自然環境・社会環境をテーマにしたグローバル(グローバル+ローカル)な展開が出来ればと思ひます。



理事(企画・総務担当)

ご とう まさ あき
後 藤 昌 昭

本学は地域のニーズに応える人材育成・研究を推進する地域貢献型大学として、教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。限られた予算の中でも、学生が生き活きと学ぶことができる環境を整備し、佐賀地域独自の研究成果を世界に向けて発信する積極的な広報活動を高めていかねばなりません。第3期中期目標・中期計画期間に向けて、学長の強いリーダーシップの下に、理事室、学部が緊密に連携して、学生、教職員、そして地域の方々にも魅力ある大学となるべく努力したいと思ひます。

ないよう世界に挑戦して行きたいと考えています。皆様のご協力とご支援をお願い致します。

学長対談

人間国宝 中島 宏 さん

芸術を通じた人材の育成とは

——青磁への飽くなき挑戦——

学長 佐賀大学は平成28年4月に佐賀県

立有田窯業大学校(有田町)を統合し、芸術地域デザイン学部を新設します。佐賀県といえば、有田焼や唐津焼といった陶磁器文化が根付く土地柄でもあり、歴史的に裏付けられた「芸術」を大学の特色として全面に打ち出していこうと、今回の対談のお相手には有田窯業大学校の特別講師でもある人間国宝の中島宏先生をお迎えしました。独創的な作品づくりで青磁を極め、唯一無二の色と造形で人々を魅了する「中島青磁」の世界について、まずはお話を聞かせてください。

中島先生 青磁をやるきっかけになったのは、若い頃、父親に連れられて古窯を巡っていたとき、古唐津や染付にまじって青磁の陶片を見つけ、あまりにもキレイな色に感動したことです。「こういうものが作りたい」と父に相談すると「青磁は難しい。化学を知っていなければダメだ」と言われたので、とにかく徹底的に勉強しました。青磁は他の焼き物とは異質の輝きを放っていたので、どんなに難しくと言われても挑戦したかったんです。

学長 先生は文献調査だけでなく、中国の古窯を実際に訪れるなど現地調査にも積極的でした。先生は文獻調査だけでなく、中国の古窯を実際に訪れるなど現地調査にも積極的でした。先生は文獻調査だけでなく、中国の古窯を実際に訪れるなど現地調査にも積極的でした。先生は文獻調査だけでなく、中国の古窯を実際に訪れるなど現地調査にも積極的でした。

生み出しているのでしょうか。

中島先生 これまで、さまざまな中国の古窯に行きましたが、一番印象的だったのは昭和60年に訪れた龍泉窯(国宝に指定されている)で、青磁はすべて龍泉窯なのですが、日本人で現地に行った人は誰もいなかった。今は整備されていますが、当時は十数時間かけて道なき道を行くような感じ。命からがら行きました。現地の人たちは、「外国人ではあなたちが初めてだ」と歓迎してくれました。行って感じたのは、龍泉窯は青磁が生まれるべくして生まれた場所。陶土などの原料や燃料などが豊富で、なにより山の風景が有田とよく似ていたことにも感動しました。

学長 青磁の味わいの一つが貫入と呼ばれるヒビ割れで、偶然によって生じるものですが、中島先生は自由自在に入れられる技術をお持ちだとお聞きしました。

中島先生 貫入は生き物で青磁は生きています。収集する骨董品のなかには800年前に焼かれた南宋官窯の青磁もありますが、新しいヒビが今でも入ります。貫入は温度差などによって偶然に入りますが、私の作品の貫入は、すべてが計算されたもので、偶然を必然にすることが私の仕事でもあります。

学長 地方(風土)の価値が見直されている今、佐賀大学では「地域とともに未来に向

かつて発展しつつける大学」をキャッチコピー

に掲げています。平成25年には国立の総合大学としては初めて美術館をオープンし、地域のみなさんから愛される「みんなの美術館」になることを目指しています。また、来年度新設される「芸術地域デザイン学部」では、佐賀の風土、地域としての価値を芸術の力でデザインすることで、新たな付加価値を生み出していきたいと考えています。

中島先生 焼き物は、その土地の個性や風土色が強く出ていると思います。たとえば、ヨーロッパでは全部揃った食器が使われますが、日本は多様多彩。有田、唐津があれば、備前や信楽、場合によっては漆など、同じ食事の席でさまざまな器が使われ、上手くコーディネートして楽しめます。焼き物には、日本の歴史や文化、日本人のアイデンティティが凝縮され、焼き物のことを知れば、日本を語れるといっても過言ではありません。とくに佐賀では、400年の歴史のなかで磁器の有田と陶器の唐津が共存して生き続けてきました。普通どっかか減ってしましますが、共存して今に至っているのは佐賀の風土といえるでしょう。

学長 学生と同じような年代の頃の印象的な出来事はありますか。

中島先生 20歳そこそこのときに、陶芸評





論家の小山富士夫先生(故人)に鎌倉まで会いに行きました。青磁に関する本のほとんどに名前が載られているような先生で、約束もしていないのに自宅まで押しかけました。雪が降る日で、寒いからと入らせていただいたコタツの温もりは今も忘れられません。小山先生は「青磁ぐらゐ魅力なものはない」と、青磁に挑戦する私を「勇気がある」と励ましてくださいました。飛び跳ねるくらい嬉しくて、それからは青磁に関する勉強はなんでもやりました。30代の時に出品した伝統工芸展で初めて賞をいただくと、「九州にも青磁作家がいる」と注目されるようになりました。父の影響で青磁の陶片と出会い、若い頃に小山先生と出会えたからこそ今の私があると思っています。

学長 若い人たちの教育についてはどのようにお考えですか。

中島先生 以前は一心不乱に自分の仕事にだけ没頭していましたが、人間国宝に認定されてからは自分のことだけでなく後進の育成に尽くすことも大切な使命になっています。若い人々と研究会を開くことも増え、どうしたらやる気を引き出せるかを考えながら指導しています。たとえば、若い人たちの作品は、いいところだけを見て褒めるようにしています。自信をつけさせて、その気にさせることが大切。私自身、おだてられてここまでできましたから(笑)。もちろん、ぼろくそに言われたこともありましたが、褒めてくれた人と付き合ってきたからこそ今があります。若い才能の芽をつまなためにも、展覧会では努めて若い人を選させるようにして、作品を世に出すようにしています。

学長 具体的には、どのようなアドバイスでやる気を起こさせているのでしょうか。

中島先生 どんなに冒険しても、失敗しても命までは取られないんだから、これと生かすことは好きになんなんでも挑戦しろと言っています。とくに佐賀の陶芸家たちには「伝統的であって、前衛的であれ」と。伝統というと古臭くて守るべきもののように聞こえるかもしれませんが、攻めることが必要。そのためには、のびやかな作品づくりができて、個性的な芸術が生まれるような環境づくりがとても大切です。



学長 個性を磨くためには、まずは自分の個性が何であるかに気付かなければなりません。中島先生は、自分だけにしかない青磁を求め続けて、今のスタイルに行きつかれていますね。

中島先生 「人がやっていないことをやろう」という気持ちで、常に前だけを見てきました。作品の多くを売らない作家もいますが、私が手元においているのは4〜5点ほど。過去の作品は感性の邪魔になるからです。「これまで作ったなかで一番いい」と

思っても、3日くらいすれば飽きてしまう。もつといいのができるんじゃないかと思ってしまう。ちなみに私の作品には同じものは一つとありません。造形も色も一つひとつ違います。同じものを作ることほど面白くないものはありません。青磁作家の場合、土を変える人はほとんどいませんが私は土も変えます。釉薬と同じで、土を変えても、作品の表情が全く変わるからです。また、青磁といえは磁器をイメージする方が多いと思いますが、私は磁器と陶器の両方を作っていて、磁器には「青磁」、陶器には「青磁」を作品名に使用して区別しています。好みもあると思いますが、磁器よりも温かみがあって、力強く重厚な感じがしますし、作り方も陶器の方がはるかに難しいです。

学長 個性を磨くために必要なことはなんでしょうか。

中島先生 刺激を受ける作品と出会うことも大切です。私は、中国の博物館で青銅器に出会ったとき衝撃を受けました。その存在感に圧倒され、青銅器から発想した作品を作りました。また、仕事をするためのモチーフとして収集するようになったのが古武雄。古武雄は私たちが付けた名称ですが、江戸時代に武雄領内で焼かれた陶器のことで、ダイナミックで独創的なデザインが特徴的です。いい焼き物というのはほとんどが外に出てしまっているので、地元の人々が知らない地元の素晴らしい技術がたくさんあります。そういった伝統技術を見て触れることも必要だと思います。

学長 平成28年には有田創業400年という節目の年で、佐賀大学と有田窯業大学校との統合は、次の100年にも有田が栄

えるように人材・技術・文化などの基盤を強化することが目的です。この400年間に有田は陶芸の技術を芸術として昇華させてきたと思います。中島先生の作品がその代表ともいえますが、世界中の陶芸家を有田に呼んで、彼らに有田の400年の進化を見てもらいたいですね。

中島先生 まさにその通りです。同時に、有田を世界遺産に登録しようという話もずっと訴え続けています。有田は産業と文化の両面があって、今も生きています。歴史的に見ても、世界のブランドとしてPRする価値が充分にあります。世界遺産に登録されれば、世界が注目して人も作家も集まります。その気になれば実現できることだと思っているので、まだまだ諦めてはいません。

学長 今も挑戦し続ける中島先生の生き方を学生たちにも伝えたいので、芸術地域デザイン学部のみならず、全学部を対象とした特別講義をぜひお願いしたいです。最後に、佐賀大学にどんなことを期待されていますか。

中島先生 ぜひ、いい芸術家、アーティストを育てていただきたい。それも、佐賀のアイデンティティを持ちながら、世界に通用する作家です。伝統的な中から前衛的な作家が生まれて欲しいです。そのためには、毎日思い続けること、挑戦し続けること、自分から行動することが大切。大学も学生も、美の「ドールマン」になってもらいたい。特別講義など私でお役に立てることがあれば、喜んで協力させていただきます。

学長 「美のドールマン」とはいい言葉ですね。本日はお忙しいなか、貴重なお話しをありがとうございました。

～佐賀大学のグローバル化推進のために～

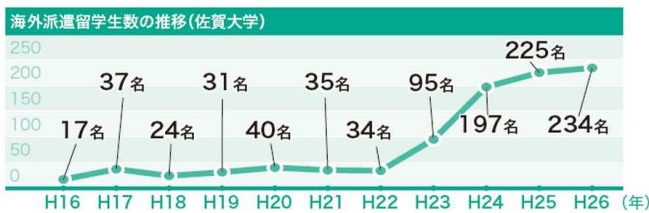
国際交流推進センター

佐賀大学は、海外との双方向型の教育・研究交流の実現及びアジアの知的交流拠点を形成するという国際化の目的を掲げています。留学生に対しては、これまで実践してきた国際教育プログラムの拡充、研究者の受入れの更なる推進、また、本学の学生・研究者に対しては海外派遣の拡大等、国際交流の新しい潮流を作り出し、大学の国際化の進展を目指しています。

1 佐大生の海外派遣

交換留学(1学期または1年間)

佐賀大学は世界21カ国149大学と学術交流協定を締結しています。これらの協定校へ佐賀大学の推薦を受けて派遣される留学を「交換留学」といいます。交換留学のため、留学先の大学に授業料を支払う必要はなく、留学先の大学で取得した単位を佐賀大学の単位として認めることができます。また、留学をサポートする各種奨学金制度も充実しています。



平成26年度海外派遣留学生(派遣先国・地域)			
中国	37名	オーストラリア	1名
アメリカ	30名	カナダ	1名
シンガポール	29名	フィンランド	1名
韓国	20名	フランス	1名
ドイツ	20名	リトアニア	1名
スリランカ	19名	インドネシア	1名
タイ	18名	ガーナ	1名
ニュージーランド	11名	イギリス	1名
香港	10名	オーストリア	1名
台湾	9名	ウクライナ	1名
ベトナム	9名	ギリシャ	1名
ミャンマー	6名	カンボジア	1名
ポーランド	4名	合計	234名

平成26年度海外派遣留学生(主な派遣先大学)			
北京工業大学	中国	ペラデニヤ大学	スリランカ
浙江科技学院	中国	ダマサート大学	タイ
スリッパローック大学	アメリカ	国立政治大学	台湾
国民大学校	韓国		

※主な派遣先であり、派遣数の上位ではない

短期海外研修プログラム Saga University Study Abroad Program (SUSAP) (10日から1ヶ月程度)

SUSAPは、交換留学に比べて、10日から1ヶ月程度と期間が短い分費用を安く抑えることができる上、海外旅行よりもいっそう充実した時間を過ごすことができます。外国語の運用能力を高めるだけでなく、現地教員による講義やクラス内外での同世代の学生との共同活動や意見交換、一般市民との交流を通して、現地の社会や文化、生活習慣を学び、多様な文化や価値観を理解するとともに、国際的な視野を育むことを目指しており、語学力により多様なプログラムが用意されています。

平成26年度SUSAPプログラム				
中国・杭州	浙江科技学院	6名	18日間	浙江科技学院プログラム2014
韓国・大邱	大邱大学校	9名	19日間	大邱大学校プログラム2014
シンガポール	カーティン大学	4名	23日間	シンガポール英語研修プログラム 3週間集中英語コース
シンガポール	Ngee Ann Polytechnic	20名	15日間	シンガポール イマージョンプログラム
シンガポール	カーティン大学	5名	24日間	カーティン大学プログラム
香港	香港中文大学	10名	10日間	香港中文大学学生交流プログラム
ニュージーランド	オーkland大学	11名	26日間	オーkland大学プログラム
中国・杭州	浙江大学城市学院	11名	13日間	浙江大学城市学院学生交流プログラム
合計:76名				



2 留学生の受入

学位を取得する目的で佐賀大学に入学する留学生向けには、私費外国人留学生特別入試や外国人留学生入試を実施しています。また、工学系研究科では、PPGAプログラムなど、講義のすべてを英語で行うプログラムも提供しています。このほか、次のような特色あるプログラムも用意しています。

Saga University Program for Academic Exchange (SPACE)

SPACE は佐賀大学の協定校に所属する学生を対象とした、半年間または1年間のプログラムです。授業は日本語もしくは英語で開講され、日本語や日本社会について学ぶだけでなく、個々の学生の専攻に応じた授業を履修できるユニークなカリキュラムです。

平成27年度SPACE (受入れ実績)					
アメリカ合衆国	スリッパリーロック大学	1名	台湾	国立政治大学	6名
インドネシア共和国	リアウイスラム大学	1名		元培医事科技大学	
オーストラリア	ラトロープ大学	3名	大韓民国	輔仁カトリック大学	
	シドニー工科大学			金慶大学校	
カンボディア王国	王立プノンベン大学	1名	国民大学校		
スリランカ民主主義共和国	ペラデニヤ大学	2名	中華人民共和国	培材大学校	
バングラデシュ人民共和国	チッタゴン工科大学	1名		西南政法大学	15名
フランス共和国	オルレアン大学	2名		浙江大学城市学院	
	ブルゴーニュ大学			浙江理工大学	
ベトナム社会主義共和国	ベトナム国家大学(ハノイ)外国語大学	2名	ハルビン工業大学	北京工業大学	
合計					38名



佐賀大学サマープログラム Saga University Summer Program (SUSP)

世界各地の協定校から参加する3週間のSUSPでは、若者がどのようにリーダーシップを発揮できるのかについて、レクチャー、学外での視察・実践学習、ディスカッションを通して考え、学びます。佐賀大学の学生も参加することができます。

平成27年度サマープログラム (受入れ実績)					
タイ	7	カンボジア	3	■受け入れ大学	
中国	4	アメリカ	2	タマサート大学(タイ) / 王立法律経済大学(カンボジア) / スリッパリーロック大学(アメリカ) / カセサート大学(タイ) / 王立プノンベン大学(カンボジア) / コンケン大学(タイ) / ヴィタウタスマグヌス大学(リトアニア) / ガジャマダ大学(リトアニア) / 中国農業大学(中国)	
インドネシア	4	リトアニア	1		
合計			21		



各プログラムの詳細については下記の国際交流推進センターホームページをご覧ください。
<http://www.irdc.saga-u.ac.jp/ja/index.html>

留学体験談 派遣

のなか けいし
野中 啓示 さん

国立政治大学(台湾)

平成27年2月～平成28年1月

言葉の壁を感じつつも少しでもうまくコミュニケーションが取れた時は、日本にいる時とは比べ物にならないほどの嬉しさがあります！留学生向けのさまざまなイベントを通して現地の学生や留学生との交友関係も広がります。



留学体験談 受入

ソン ソピアラ
Sun Sopheara さん

王立プノンベン大学(カンボジア)

平成25年後期～平成26年前期

この一年の留学の中で、出会いが一番だと思います。留学生同士&佐賀大学生はもちろん、佐賀大学じゃない人、佐賀県内、県外の人でもいるんな人と出会ったなって！自分から誰とでも友達になろうと思ったことは、本当に正しかったと実感しました。



大学祭の成功に向けて

学園祭中央実行委員会



オープニングのイベントでの風船配布

平成27年11月7日(土)、11月8日(日)の両日、第18回佐賀大学大学祭を佐賀大学本庄キャンパスで開催しました。当日は、どぶろっくさんとスパローズさんによるお笑いライブやフリーマーケット、飲食物の出店などでたくさんの来場者があり、大変盛り上がりました。



中央実行委員会本部で笑顔で活動する委員たち

この年に一度の大学祭を企画・運営するのが私たち学園祭中央実行委員会です。学園祭中央実行委員会は「企画・情宣・バザー・渉外・書記」といった5つの局を中心として、「大学祭の成功」といった大きな目標に向かって活動を行っています。(企画局⇒当日のステージの準備・運営。情宣局⇒学内への宣伝活動。バザー局⇒大学祭における出店やフリーマーケット等の管理。渉外局⇒マスコミや出店のテントの借用等の学外との交渉。書記局⇒大学祭当日に配布するパンフレットを一から作成。)どれも大学祭の運営を行っていく上で欠かすことのできない存在です。その他にも企業との広告・協賛等のやり取りを各自で行っています。

毎年、大学祭にはテーマを設けているのですが、今年度の大学祭のテーマは「響鳴」でした。この「響鳴」という言葉は、私たちが考えた造語であり、「共鳴」と「響く」の二つの意味を併せ持っています。前者には、「ある人が感じた感情や五感でもとらえることができる行動に心から同感する」といった意味があり、後者には「印象深く伝わる」「世間に広く知られる」といった意味があります。また、「私たちの活動や熱意が佐大生へ、そして大学外にまで伝わることで、いろいろな方々に大学祭へ行きたいと思ってもらい、実際に来るといった行動を起こしてほしい」という思いが込められていました。大学祭当日には多くの来場者から笑顔で「楽しかったです。」との言葉をいただきました。その笑顔が私自身、とても心に残っており、「響鳴」のテーマのもとで頑張ってきた結



夜遅くまで作業した「各団体の番号札」作り

果だと実感できました。

今回の大学祭を無事に終わることができたのも、学園祭中央実行委員会のみみなをはじめとして、OB・OGの皆様、ボランティア



大学祭の入場門を作る委員たち



なかしま けいた
中嶋 啓太

学園祭中央実行委員長
理工学部
機械システム工学科3年



エンディングにて締めめの言葉を述べる委員長

の皆様、ご協力いただいた企業の皆様、学校関係者の皆様、地域住民の皆様、大学祭にお越しくくださった来場者の皆様、などと挙げ出したらきりが無い程の多くの方々の支えがあったからだと深く感じております。「私たちは多くの方々に支えられて大学祭を行うことができている」ということを忘れることなく、これからも素晴らしい大学祭を、信頼できる後輩たちが作り上げてくれることを願っています。今後とも学園祭中央実行委員会をよろしくお願ひ致します！



大学祭テーマ「響鳴」の看板前での集合写真

連絡先はコチラ

E-mail : Sagauni_fes@yahoo.co.jp

佐賀のものづくりをニューヨークの若者に発信 カケハシ・プロジェクト

「カケハシ・プロジェクト」は日本政府が推進する「対日理解促進交流プログラム」の交流事業の一つで、佐賀大学はアメリカに派遣される第一陣として選ばれました。学内から選抜された23名が平成27年11月17日から24日までニューヨーク州を訪問し、今年創業400年を迎える有田焼をはじめとする佐賀のものづくりを発信する活動を行ないました。現地学生との交流、日本国総領事館や国連本部の訪問、米国奴隷制度に関する視察や9.11メモリアルの見学などを通して、異なる文化、宗教、信条をもつ人々とのコミュニケーションのあり方、相互理解の重要性について学びました。



よしだ ゆり
吉田 有里

カケハシ・プロジェクト団長
教育学研究科
教科教育専攻修士2年

日 本の魅力を伝えるというミッションを携えて、私たちが最初に訪れたのは日本国総領事館でした。「発信とは、一方的にお国自慢をするのではなく、相手のことを理解したうえで自分のことを理解してもらう、双方向的な行為である」という広報センター長の言葉は私たちの活動の大切な心得となりました。



下絵付け実演と現地学生による体験

ニューヨーク州立大学ラガーディア・コミュニティカレッジでは、有田焼と佐賀のものづくりについて発表と実演を行いました。美しい佐賀の景色、有田焼の歴史や製作工程、職人さんのインタビューなどを紹介しました。時代を経ても変わらない価値(技術・精神)をもつ有田焼と、時代とともに柔軟



国連訪問



日本酒の香りを楽しむ現地学生

に変化する有田焼という二面性を紹介しながら、有田焼の魅力についてしっかりとアピールすることができたと思います。

佐賀のものづくりを理解し、また楽しんでもらうために、会場で実演をし現地学生にも体験してもらいました。有田焼の下絵付けと展示、日本茶と佐賀の菓子、日本酒、佐賀錦、書道の6つのブースを設置しました。各ブースでは工程や技法等の説明を英語で行いながら、佐賀の文化に親んでもらうことができました。



美術・工芸課程の学生が実演

アメリカでのさまざまな人々との交流や体験を通して、人種や文化が違えども、偏見を持たずに、オープンな心で相手を理解しよう



醸造のプロセスを紹介



ディスカッション後の発表

と努力すること、その上で自分のことを理解してもらうよう努めることこそが重要であると学びました。私たち23名は得られた知識と経験を活かし、今後も継続して佐賀のものづくりや文化について発信活動をしていく予定です。



有田焼の製造工程と種類の紹介

慢性骨髄性白血病の 画期的治癒に期待

毎日薬を飲み続けないと再発が抑えられないとされてきた慢性骨髄性白血病の薬の服用を一定条件のもとで中断させた結果、約半数の患者が1年以上薬を飲まなくても再発をしませんでした。慢性骨髄性白血病の薬は非常に高価で、患者の経済的負担を軽くするという面からも非常に有益なことです。



きむら しんや
木村 晋也

医学部
血液・呼吸器・腫瘍内科
教授

慢性骨髄性白血病は、造血幹細胞移植が成功する以外、抗がん剤で治療をしても数年前後で死亡する「不治の病」でした。平成13年に、慢性骨髄性白血病の原因のがん蛋白をピンポイントで攻撃する抗がん剤イマチニブ（第一世代ABL阻害剤グリベック®）が発売され、予後は劇的に良くなりました。しかし、毎月自己負担額が数万円となるグリベック®を生涯にわたって飲み続けなくてはならないという問題が出てきました。最近、フランスから一部の患者でグリベック®を中断しても再発がないことが報告され注目さ

れました。

平成21年にグリベック®より325倍強力で、しかも免疫細胞を増加させる抗がん剤ダサチニブ（第二世代ABL阻害剤スプリセル®）が発売されました。そこで研究代表者として、全国41ヶ所の病院と協力し、スプリセル®で1年以上原因遺伝子が検出されない患者さんを対象に、治療を中断する臨床試験（DADI試験）を行いました。

48%の患者がスプリセル®を中断して1年以上、原因遺伝子が検出されませんでした。特にNK細胞という免疫細胞が増えている人で

は、なんと61%の患者さんが治療中断に成功されました。スプリセル®中止後に原因遺伝子が検出されるようになった患者さんでも、スプリセル®再開で全員が6か月以内に再び検出されなくなりました。これらの結果は、スプリセル®という飲み薬だけで難治性の血液がんが、治療する可能性を示す画期的なものです。またNK細胞数がスプリセル®を中断する際の重要な指標となり得ることを世界で初めて示せました。我々の研究をもとに、もう「死ぬまで薬を飲み続けてください」と言わなくても良い日がくると思います。

調整性T細胞が減り、NK細胞が増えると治療中断できる仕組み(推測)

●スプリセル®のない時



*調整性T細胞とは：免疫応答機構の過剰な免疫応答を抑制するためのブレーキや、免疫の恒常性維持で重要な役割を果たすT細胞の一種。免疫応答の抑制的制御を司る。

●スプリセル®使用時



卒業生・学生・教職員のコラボした一日

— 経済学部版ホームカミングデイ —



業種別交流会の様子

平成27年10月24日(土)午後、経済学部版ホームカミングデイを開催しました。

約150名の卒業生、現役学生そして教職員(OB教員含む)が一堂に会してコラボした一日となりました。参加者の内訳は、卒業生(56名)、学生(40名)、OB教員(16名)、現職教員(36名)でした。

最初に開会のセレモニーを行い、宮崎耕治学長と江口一郎楠葉同窓会長から温かいご挨拶をいただきました。

イベント1では、ゼミナル連合会委員長の額田健汰君(経済学部3年)が、「学生実態調査発表—イマドキとむかしどき学生—」と題した発表を行い、生活や勉強、アルバイトそして就職活動は今と昔でどういう違いがあるのかを、

卒業生からいただいたアンケートを使って、説明・報告しました。同窓生から昔の思い出話などがでて、和やかな中にも活発な議論ができました。また、アンケートの回答の中にあつた、昔よく利用した食堂や居酒屋が現在どうなっているか、などを調べて写真まで示したのは、卒業生の皆さんも懐かしく思われたようです。

イベント2では、同窓生を囲んで学生が就職について学ぶ企画とし、全体で100名ほどの参加がありました。5つの希望就職先(業種別)の分科会(メーカー、サービ



ス、金融、公務員、会計士に分かれ、同窓生から就職活動の体験談やアドバイスを聞いたり、悩みの相談をしたりと、学生には大変好評で、これからも続けて欲しいとの意見がありました。

イベント終了後には、楠葉同窓会主催の懇親会が開かれました。



江口楠葉同窓会長



昔の写真を紹介しながらの学生発表

今年は、想定していた数をはるかに超える参加があり、これもまた盛会で楽しいひとときを過ごすことができました。

本企画は、経済学部50周年記念事業の一環として行いました。その取組の中で、楠葉同窓会の皆さんとも絆が強くなったと感じています。

今年は本格的に50周年です。一緒に盛り上げて行きたいと思っています。

“楽しく、かつこよく、 稼げる農業”を!



佐賀大学農学部と佐賀県、ソフトウエア開発の「株式会社オプティム」(佐賀市、菅谷俊二社長)は平成27年8月に、IT農業推進のための連携協定を結びました。ドローン、ネットワークカメラ、フィールドセンサー、ウェアラブル(身に着けられる)端末などを駆使し、作業、成長、環境記録を総合的に集約する情報システムを開発します。蓄積したデータの管理・分析により農作業の効率化、省力化を実現し、消費者に安心・安全で美味しい高品質な農作物を届ける取組で、2、3年後の実用化を目指しています。

3者連携協定の背景

農業県である佐賀県では、米、麦、大豆、たまねぎ、アスパラガス、いちご、みかん、茶、佐賀牛など、全国に誇れる農産物が数多くあります。一方で、担い手の高齢化や減少、農業所得の伸び悩みや、依然として発生が続く有害鳥獣被害など、農業を取り巻く課題は山積みで、耕作放棄地が増え続けています。このままいくと、佐賀県はじめ日本から農業が消滅してしまうという非常に危機的な状況です。これを解決するためには、若手や企業などが農業に参入しやすい状況が必要で、高齢化する農業者の労力を減らすことも大事です。また、技術やノウハウの伝承も大きな問題で、そのアプローチの手段の一つとし

て、ITの活用があります。ベテラン農業者の技術をデータとして蓄積し、誰もが必要な時にアクセスできるようにするものです。

目指すIT農業とは どのようなものか

私たちが現在目指しているのは、露地で行っている農業をITで稼げる農業にする試みです。ドローンや各種センサー、ネットワークを使ってビッグデータを収集、解析し、生育管理を手軽に行えるようにすることで、農作業(施肥、雑草・害虫・鳥獣害防除、収穫)の省力化や効率化を実現します。例えば、センサーなどで病変をいち早く検知して対応することで、農薬が少なくて安全な農産物ができます。また、人と人を結ぶのも重要です。ベテラン農業者と初心者、生産者と消費者をつなぐことで、農業技術のスムーズな移転や消費動向に応じた生産を実現できると考えています。将来的には、海外にも安心安全な農作物を販売できるよう



*IoT(インターネット・オブ・シングス):モノのインターネット。自動車、住宅、家電などの身の回りのモノがインターネットにつながることで新たなサービスを生み出すこと。

になると期待されます。

3者の役割分担

本研究開発では、農作物の自動生長解析、害虫検知及び防除システム、害獣対策、圃場自動モニタリング、遠隔作業支援、作業日誌ログの二元構築を目的し、これらをクラウドシステム上で利用する体制構築を試みます。具体的には、佐賀大学がセンシング技術及び生長解析等の計測システム構築と作業分析を担当し、オプティムが*IoT(Internet of Things)技術構築を担当し、佐賀県が県全域を対象とした実測データ計測とシステム実証を担い、3者が連携することによって短期間のうちに農業とIoTを高度に融合した世界初の遠隔経験共有システムの構築と実証に取り組みます。

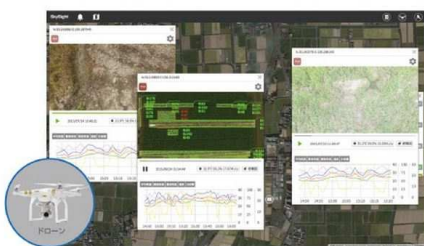
さらに、センサーやドローン、遠隔作



佐賀県の農業関係試験場や、佐賀大学に付属する農場あわせて全10農場をスキャン



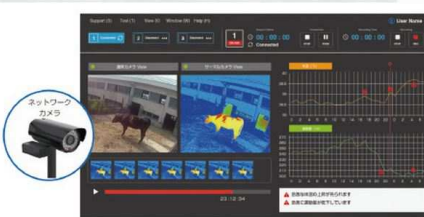
佐賀県の農業関係試験場や佐賀大学に付属する農場あわせて全10農場をIoTを使い農地の温度、湿度、雨量などの各種データを蓄積する



収集したデータをオプティムが開発している世界初ドローン対応ビッグデータ解析プラットフォーム「Sky Sight」に蓄積し管理、分析を行っている



ウェアラブルを活用し、農家の方々への技術支援を行い、いずれは農家の方々の情報発信ツール、プラットフォームへと発展させる



牛、にわとり作物の生育調査。サーマルカメライメージから分娩、発情、病気の確認を行う

IoT農業分野における人材育成と知財創造

業専用スマートグラスなどのウェアラブル端末の改良は機械メーカーの力が必要になりますし、農業現場をよく知る農業者の協力も不可欠となります。さまざまな人たちに参加していただき、開発の速度を上げていきます。今回の産学官の3者による連携協定を行うことで、各々が持つ技術の融合を図り、技術開発の効率化、加速化、高度化により「楽しく、かつこよく、稼げる農業」の実現を佐賀より実現していきます。

本連携において、佐賀大学農学部や佐賀県生産振興部の学術知見・ノウハウとオプティムの研究開発をベースとしたIoTテクノロジーを融合させ、IoT農業分野における知財創造を目指す

今後の展望

また、佐賀大の重要な役割としては人材育成があります。IoT農業を学んだ、将来の農業のリーダー的人材を育てます。オプティムの菅谷社長は佐賀大学農学部在学中にIoTベンチャーを起業し今日に至っています。菅谷社長やオプティム社員による、IoTやベンチャー起業をテーマとした講義を平成28年度から開始します。

IoT技術を使うことで、「楽しく、かつこよく、稼げる農業」を実現していきます。その結果、若者が新規参入し、退職した人が第二の人生に農業を選ぶようになり、IoTがそうした人々をサポートします。IoT農業技術は佐賀県だけでなく、日本全体に広がると思われ、さらに国内だけでなく、



佐賀でウェアラブルでつながる、世界一楽しく、かつこよい農業を目指す

天文部(鍋島キャンパス)



部長
みやけ すなお
三宅 素直
医学部医学科3年



こんにちは、佐賀大学医学部天文部SMAC(スマック)です。僕たちは現在、30人ほどの部員が所属していて、楽しく活動しています。

いままではほとんど部員がおらず、最近、本格的な活動を始めました。自分たちで率先して活動内容を決めているので、みんなの主体性を育むことができる部活です。また、多くの部員が兼部をしています。

天文と聞くと、どんな活動を想像しますか?ただ星を眺めるという人や、星座を探してギリシャ神話を勉強している人もいますし、流星群のときだけ参加して流れ星をお願いをするという人もいます。他にも、望遠鏡を使って惑星の観測をしたり、星雲星団の写真を撮っている人もいます。

夜空の楽しみ方は人それぞれなので、いろいろな楽しみ方で活動しています。観測以外には、今年は新歓コンパ、夏の合宿、秋旅行、忘年会を行いました。また、2月には冬の合宿を計画しています。定期的な部会をして、部活動Tシャツやパーカーなどを作ったりしています。

これからもいろいろなアイデアを出し合って活動していきたいと思います。



少林寺拳法部(本庄キャンパス)



主将
おだ あきのぶ
織田 旺伸
理工学部機械システム工学科3年



こんにちは!佐賀大学少林寺拳法部です。部員は1年生7人、2年生4人、3年生6人、計17名です。今はこんなに部員がいますが、少林寺拳法がどんな武道なのか知っていて入部した人はほとんどいません。入部した人のほとんどは初心者です。そして部活としては、非常に歴史があり、今年で創部40周年になります。

少林寺拳法について簡単に説明すると、戦後にできた比較的新しい武道で、突き・蹴りだけでなく、抜き・固め・投げ技など、多種多様な技を持つ武道です。初心者が多いですが一生懸命練習すれば、大会で最優秀賞や優秀賞を取れるくらい上達できます。今年も総合杯をとることは叶いませんでしたが、全九州学生大会で、男女有段組演武や、団体演武、運用法などで多くの賞を取ることができました。それ以外にも夏は合宿で海に行ったり、大学祭に出店したり、イベントいっぱいとても充実した大学生活を過ごすことができる部活だと実感しています。



佐賀大学オリジナルグッズ

■問合せ先：佐賀大学生協/TEL0952-25-4450

佐賀大学は、地域に根ざした大学を目指し、地元に着したオリジナルグッズを重点的に開発しています。有名な「バルーンフェスタ」のバルーン柄をあしらった有田焼のカップや、大学公認キャラクター「カッチーくん」グッズ、地域振興のため、地元の酒造元を2年ごとの持ち回りで醸造をお願いしている日本酒「悠々知酔」などです。

佐賀大学生協ではこのようなオリジナルグッズの開発と販売に全面的に協力し、「悠々知酔」の新酒予約受付業務や入学式、学位記授与式(卒業式)、学会などでの出張販売にも取り組んでいます。



大学公認キャラクター「カッチーくん」

佐賀大学キャンパス内や佐賀平野に生息し、佐賀大学の校章のデザインにもなっています。かささぎ(カチガラス)をもとに誕生した大学公認キャラクター「カッチーくん」は、各地で開催される、ゆるキャラコンテストに参加したり、各オリジナルグッズのキャラクターとして活躍しています。入学式・学位記授与式(卒業式)・オープンキャンパスも重要な出番です。



オリジナル清酒 悠々知酔



カッチーくん
クリアホルダ
(72円)



カッチーくん付箋紙セット
(298円)



カッチーくん
シャープペンシル・
ボールペン
(各113円)



カッチーくんマグカップ
(各463円)

地元の名産
有田焼窯元製
磁器ぐい飲み
(2,625円)



カッチーくん
ハンドタオル
(各133円)



キーホルダー
(597円)



メッシュポロシャツ
(2,050円)
大学職員の方にもクールビズ
用に愛用いただいています。

弁当用
エコバッグ
(各390円)
大型の幕の内
弁当を覆かさず
持ち帰れます



*商品の価格は税込です。

市場直次郎コレクションより

「花鳥風月に遊ぶ～近世の絵師と歌人～」展 開催中!

みなさんは伊藤若冲という絵師をご存知ですか。写実を超えたファンタジックな鶏を描いたことで有名で、その奇抜で斬新な表現は、現代でも高く評価されています。

ただいま佐賀大学美術館で開催中の展覧会では、この若冲の鯉の掛軸をはじめ、与謝蕪村の扇面や長沢芦雪の山水画、狩野派の動植物画、琳派の画家・酒井抱一(はういつ)の掛軸など江戸時代の作品を展示しています。その他にも、朝ドラ『花子とアン』で蓮子さまとして描かれた柳原白蓮や恋心の歌集『みだれ髪』で有名な与謝野晶子とその夫・寛、『雨月物語』を書いた上田秋成ら歌人の色紙など、佐賀大学附属図書館が所蔵する市場直次郎コレクション約1,900点の中から選りすぐりの名品31点をご紹介します。

この貴重なコレクションは、佐賀大学の前身である佐賀師範学校で教授をつとめた市場直次郎氏が70年もの歳月をかけて収集したものです。

お時間のあるときに、ゆったりと時を忘れ、日本美術の世界に身をおいてみてはいかがでしょうか。



市場直次郎コレクションより 「花鳥風月に遊ぶ～近世の絵師と歌人～」

- 会場 佐賀大学美術館 特別展示室
- 会期 平成27年11月25日(水)
～平成28年3月13日(日)
- 主催 佐賀大学美術館
- 開館時間 10:00～17:00 ※月曜休館
- 観覧料 無料

佐賀大学メールマガジン登録受付中!!

読んで役立つ情報満載!!

登録は → <http://www.saga-u.ac.jp/mailma/>

または 佐賀大学 メルマガ 検索



UNIVERSITY
ACCREDITED
Mar.2010

編集後記

昨年10月、宮崎学長による新体制がスタートしました。それに伴い、執行部体制も一新されましたので、本号では新学長の抱負に併せて理事4名の方針も掲載しました。平成28年度からは、第3期の中期目標・中期計画が始まりますが、少子化による受験者の減少、運営費交付金の削減など、課題が山積しています。大学をどのように経営し、どのような方向へ導くか、宮崎学長のリーダーシップに期待が高まります。

宮崎学長の抱負では、旧佐賀藩で学んだ若者に負けない気概と進取の精神を持った学生の育成について熱く語られ、佐賀への強い郷土愛が込められていますが、これは自身が佐賀県出身ということに由来しています。

本号のトピックスは、「楽しく、かっこよく、稼げる”農業を!”」です。これは、農学部、佐賀県、そして民間のIT会社の三者がタッグを組んだ連携事業で、インターネットなどのITとデータを持ち込むことで、生産者にも消費者にも喜ばれる農業を目指しています。佐賀大から起こす進取の風として期待されています。

『かちがらす』も平成17年の創刊から11年目になります。今後、より親しみやすい広報誌となるように紙面のリニューアルを検討しています。読者の皆様のご意見、ご要望を積極的に取り入れていきたいと思っておりますので、読者アンケートなどへのご協力をお願いいたします。

(広報室長 早瀬 博範)

作品名 「^{さい}才の^{ひかり}光」

(新生絵画賞展2015 出品作品)

まつもと りょうすけ
松本 凌介(文化教育学部美術・工芸課程3年 西洋画専攻)



【作者プロフィール】

- 1993年 福岡県飯塚市出身
- 2014年 第97回佐賀美術協会展 美術協会賞
A DOMANI展(同2015年)
第64回佐賀県美術展 入選
- 2015年 新生絵画賞展2015 入選

【作者コメント】

この作品では中学生の弟をモデルとしており、この時期にしか見られない身体や表情を描いています。
人物がもつ一瞬一瞬をとらえて描いていければと思います。

本学の情報をスマートフォンで見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。
スマートフォン用 URL:<http://www.saga-u.ac.jp>

